

今後の県立高校に関する地域検討会議(第2回)資料

～ 新たな高等学校再編計画(仮称)策定に

向けた検討事項及び地域検討会議の流れ ～

岩手県教育委員会事務局
学校教育室高校改革担当

1 岩手の高校教育

○ 目指すもの

「知・徳・体」を備え、調和のとれた人間形成

= 自立した社会人としての資質を有する人財(生徒)の育成

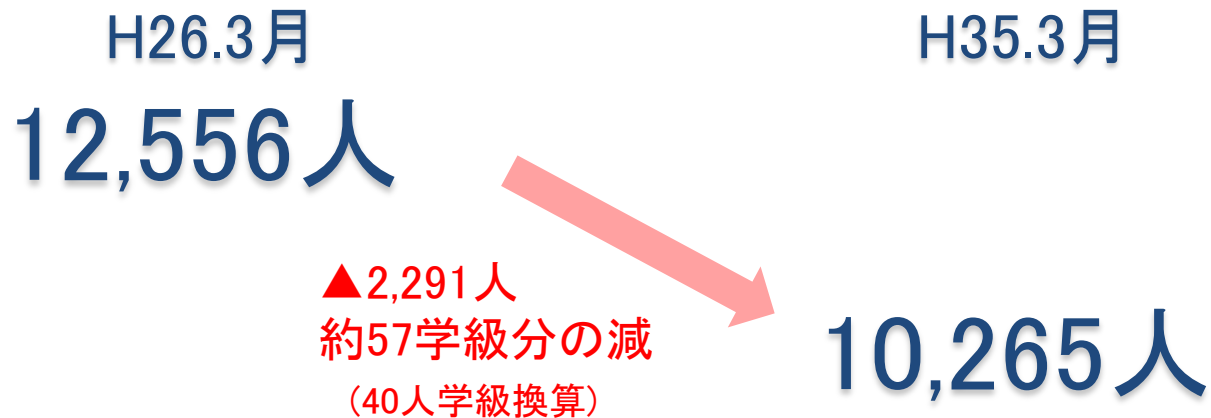
○ 生徒が身に付けるべき能力

- 基礎・基本の確実な定着
- 活用する力、自ら探究する力、
主体的に判断し、課題を解決していく能力、
コミュニケーション能力
→ 社会変化に柔軟に対応し、難局を打開する力
- 忍耐力、協調性、社会貢献への態度や意欲

「今後の高等学校教育の基本的方向」(H27.4.20改訂)より

2 岩手の高校教育の状況

◎ 少子化の進行 → 生徒数の減少
中学校卒業者数



○ 東日本大震災津波からの復旧・復興
高田高校再建 等

3 生徒の減少に伴う影響(課題) 1

○ 全県レベルでの生徒数減少 → 県内各校に影響

ブロック単位での主な影響(課題)

- ・ 全てのブロックにおいて生徒数が減少
→ 全ての学校の規模が縮小
規模の大小に関わらず、全ての学校に影響し、
小規模校における課題に直面
- ・ 多様な学びへの対応
中学生の進路の選択肢確保を目指す一方、
極端に定員を割り込んでいる学科が存在する

次スライド(スライドP5)参照

● ブロックからの流出の拡大も予想される

4 生徒の減少に伴う影響（課題）2

○ 全県レベルでの生徒数減少 → 県内各校に影響

（一人ひとりの生徒への指導が行き届く等のメリットがある一方）

小規模校において顕在化している主な影響(課題)

- ・ 生徒の多様な進路希望への対応
開設できる科目の制約
- ・ 部活動の縮小化
設置クラブの制約や活動経費の負担増
- ・ 同年代との切磋琢磨の機会の不足
同年代の生徒との新たな出会い・交流が不足しがち

- 小規模校ではこうした状況の中でさらなる生徒減少も予想され、その対応も課題

5 課題への対応

(現在)

- ・ 習熟度別・コース別編制による授業展開
中山間地域、県北沿岸の高校等に対しては、
高校標準法の基準より、教員を多く配置
- ・ 魅力ある学校づくりに対する支援
進学ネットワーク事業、いわて未来創造人サポート事業 等
- ・ 学校間の連携
少人数の部活動で連合チーム等結成



(今後)

◎ 今後のさらなる生徒減少の中で、こうした学校中心の取組だけでは根本的な解決が困難な状況に。

例) 各地域での講師等の確保
生徒会予算等の確保

6 第1回地域検討会議等での主な意見等

① 地方創生への取組に、地域の
高校は非常に重要であり、存続
が必要



② 地域と連携した魅力ある
学校づくり

③ 県北沿岸、中山間地域等での
少人数学級の導入



④ 再編を行う場合でも、生徒の選
択肢をブロック内で確保(維持)



⑤ 再編に直接関係する生徒等の
意見も確認する必要



①②

資料No.2で小規模校の課
題を整理し、課題を踏まえ、
資料No.3の他県での市町
村、学校連携事例を参考
に地域との連携の在り方
を検討

③ 資料No.4で少人数学級
の実態を整理

④ 資料No.5,6で再編を行う
場合の対応策として通学
支援の事例、校舎制を示し、
対応策を検討

⑤ 参考資料No.7のとおり、
中学生へのアンケートを実
施中

7 地域検討会議での検討事項

ここが本日、今後の論点です。

- ◎ 各ブロックにおける学校、学科の配置
 - ・ ブロックに必要な学科
 - ・ 校舎制の活用
 - ・ 通学支援策
 - ・ 隣接校との連携 等
- ◎ 地域(市町村等)との連携・協力の在り方
 - ・ 魅力ある学校づくりへの連携・協力等の手法
(学習面、部活動 他)
- その他

8 今後の地域検討会議の流れ(議論の方向性)

主な検討内容等

摘要

- 第1回
(27.5.20~6.23)
- テーマを絞らず意見交換
- ・ 小規模校であっても存続が必要
 - ・ 地域と連携し魅力ある学校づくり
 - ・ 県北沿岸、中山間地域等では、少人数学級を導入

- 第2回
(27.7.22~8.19)
- ◎ 小規模校を中心とした魅力ある学校づくりに向けた地域(市町村等)との連携・協力の在り方(具体策)
- ◎ 学校、学科の配置に係る対応(校舎制、通学支援策等)の検討

本日の検討事項

- 第3回
(27.10~11月)
- ◎ 中学生への進路希望アンケート結果の提示
- ◎ 第2回での議論及びアンケート結果を踏まえた、各ブロックの学校、学科の配置(具体化)

時期未定

再編計画案の公表

公表後
意見聴取

9 生徒減少に伴う影響への対応の方向性 1

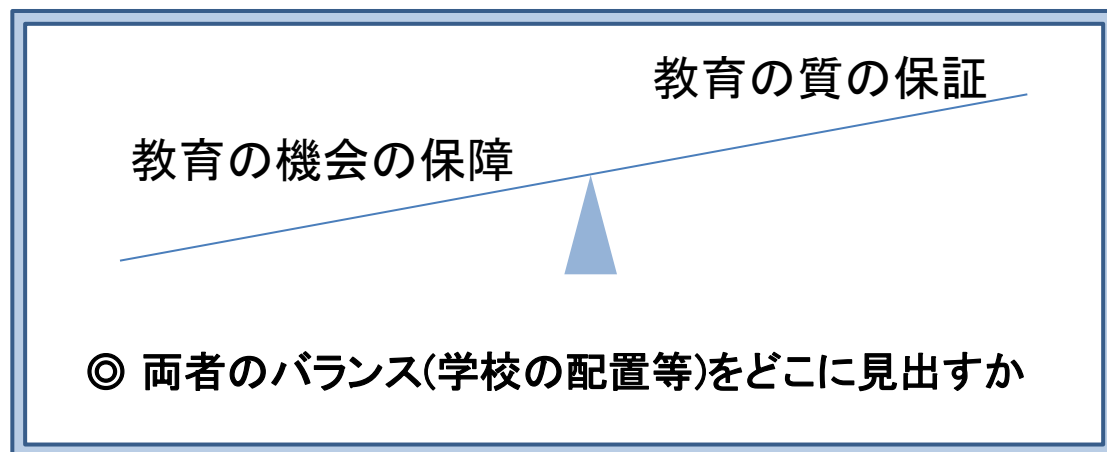
主な影響

- ・ 生徒の多様な進路希望への対応
開設できる科目の制約
- ・ 部活動の縮小化
設置クラブの制約や
活動経費の負担増
- ・ 同年代との切磋琢磨不足
同年代の生徒との新たな
出会い・交流が不足しがち

対応1

学校規模の確保

課題) 学校規模の確保により、通学が極端に困難な地域が生じた場合、教育の機会の保障が出来ない場合も



※ 極端に生徒が減少し、教育の質の保証が困難な状況への対応は必要

10 生徒減少に伴う影響への対応の方向性 2

主な影響

- ・ 生徒の多様な
進路希望 への対応
開設できる科目の制約
- ・ 部活動の縮小化
設置クラブの制約や
活動経費の負担増
- ・ 同年代との切磋琢磨不足
同年代の生徒との新たな
出会い・交流が不足しがち

対応2

1～3学級規模校の教育の質の保証

- 通学が極端に困難な地域において、小規模校が存続した場合、学校のみでの取組では困難となっている、教育の質の保証を、いかにして地域と連携・協力しながら対応していくか。

【対応例】

- ・ 学習面
課外授業の実施への支援
- ・ 部活動
外部指導者招聘、大会等への参加費支援
- ・ 生徒の経験面
地域を学ぶ機会の創出

※ 教育の質の保証につながる取組は、各高校への拡大も検討していく